



### 「そらいろ男爵」

文・ジル・ポム

絵・ティエリー・デデュ

訳・中島さおり（主婦の友社）

戦争になり、ほう弾の代わりに、敵に本を投下したそらいろ男爵。兵士たちは本の魅力にとりつかれ、戦いを休んで読みました。最後に男爵が戦争をやめさせるために双方に落としたものとは…。

(W.J)

〈大人〉



### 「図書館に児童室ができた日」

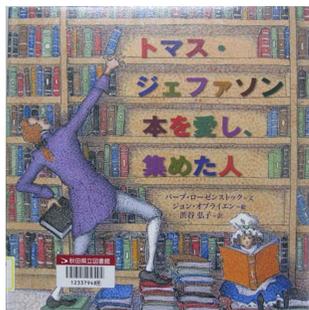
文・ジャン・ピンボロー

絵・デビー・アトウェル

訳・張替恵子（徳間書店）

まだ子どもが図書館には入れず、子どもの本がないころのアメリカ。女性が自分の意志で仕事を選ぶのが珍しかった時代に、公共図書館に児童室をつくり、国中に広げたアン・C・ムーアの話です。

(T.T)



### 「トマス・ジェファソン 本を愛し、集めた人」

文・バープ・ローゼンストック

絵・ジョン・オブライエン

訳・渋谷弘子（さ・え・ら書房）

読書家だったトマスは、本の収集家でもありました。生涯にわたって様々な分野の本を大量に集め、それらの本は世界最大のアメリカ議会図書館の基礎になるのです。

(T.M)

2019. 10 作成

紹介文後の（ ）は執筆者です。

## 子どもに読んであげたいこの一冊

～図書館のおはなし～

秋田県子ども読書支援センター支援員お薦めの本

〈およそ0～5歳〉



### 「よんでよんで」

作：ときわひろみ

絵：さとう あや（教育画劇）

自分にむけて語られるやさしい声。そんな声が聞きたくておねだりします。

「えほん よんで」。最後のページまで楽しんでね。

(Y.Y)



### 「ろばのとしょかん」

文と絵：ジャネット・ウィンター

訳：福本友美子（集英社）

ルイスの家は大好きな本でいっぱいです。山のむこうに本が一冊もない人達がいることを知ったルイスは、ろばに本を積み届けることにしました。さあ、出発！

(I.K)



### 「としょかんやさん」

文・魚瀬ゆう子

絵・水上悦子（桂書房）

図書館が大好きな二ホンカモシカのカーモくん。「としょかんやさん」になることをきめ、じゅんびにかかります。まず本集めに本だな作り。どんな図書館になったのかな。

(S.K)



「としょかんへ ぴょん!ぴょん!ぴょん!」  
 文・アニー・シルヴェストロ  
 絵・タチアナ・マイニウィス  
 訳・福本友美子（絵本塾出版）  
 本がすきでたまらないうさぎ。夜の図書館へしのびこみ、本を家にもちかえってよみふけていました。すると、ほかの動物たちもやってきて…。図書館の楽しさが伝わってくる本です。（K.Y）

〈およそ小学校低学年〉



「ネルはいぬのめいたんてい」  
 ぶん・ジュリア・ドナルドソン  
 え・サラ・オギルヴィー  
 やく・福本友美子  
 （BL出版）  
 犬のネルはお休みの日、学校の図書館で子どもたちに本を読んでもらうのが大好き。ある日、じけんがおきた。本をぜんぶどろぼうにもっていかれてからっぽに。ネルはにおいをかいで、おいかけろ！おいかけろ！（S.S）



「おばけとしょかん」  
 さく・デイヴィッド・メリング  
 やく・山口文生（評論社）  
 「おばけとしょかん」につれてこられた女の子と本ずきなおばけたちの話です。女の子からお話づくりの楽しさをおしえてもらい、からっぽだった本だはいっぱいになりました。（K.Y）



「大草原のとしょかんバス」  
 作・岸田純一  
 絵・梅田俊作（岩崎書店）  
 ぼくはとしょかんバスにのせられて、本をかりる人かえす人の手つだいをしました。とちゅうで出会った<sup>しゅうかくさい</sup>収穫祭も楽しかったなあ！ぼくは〇〇〇なんだけどね。（I.K）

〈およそ小学校高学年〉



「バスラの図書館員 ―イラクで本当にあった話―」  
 絵と文・ジャネット・ウィンター  
 訳・長田弘（晶文社）  
 イラク最大の都市であるバスラ。2003年のイラク戦争で図書館が爆撃されようとする時、女性図書館員のアリアさんは本を守るためにどうしたでしょうか？本には、私たちの歴史が全部つまっています。（O.K）



「ぼくのブックウーマン」  
 文・ヘザー・ヘンソン  
 絵・デイビッド・スモール  
 訳・藤原宏之  
 （さ・え・ら書房）  
 カルの家は学校へ通うこともできない山の上。でも、どんな天気の日でも馬で本を届けに来る図書館員がいた。カルは本には興味がなかったが、吹雪の姿を見て、どうしてそこまでするのか突然知りたくなり…。（K.S）